

須貝昭弘●

本書を読み終えた後、書棚から21年前に出版された『歯苦歯苦 歯槽膿漏激闘編』を手に取り、当時開業したばかりでこの本を読み感動したことを思い出していた。開業当初、意欲ばかりが空回りし、患者との関係やスタッフとの関係に行き詰まっていた。この本の最大の特長である患者さんの体験記から始まる内容は、悶々として毎日を送っていた筆者の心を惹きつけた。そこに書かれていたことは、患者さんが自分の病状を正確に把握し、どのような行動を取らなければならないかを理解して実践すること、その動機づけを行いしっかりとした結果を出していく医院側の能力、その結果に対する患者さんの満足と感謝の言葉などであった。このことはまさに、慢性疾患である歯周疾患を治療していくうえでの理想的な患者—歯科医師関係であり、このような関係を築くことが臨床家として最も重要であることを学んだのであった。

今回、21年ぶりに書き改められた本書も前著と同様の構成になっており、おそらくこれは著者（北川原 健氏）が意図してのことだろうが、患者さん、スタッフ、歯科医師と読み手によって感じ取るものが全く違う内容になっている。

患者さんが待合室で本書を手に取れば、歯周疾患に悩む心の励ましになるであろうし、自分が何をしなければならぬのかを感じることができるに違いない。スタッフは、自分たちが普段何気なく患者さんにかけている言葉や行っている処置が、患者さんにどのように受け取られているのかがわかる。また思うように反応してくれない患者さんに悩むスタッフが読めば、自らの患者さんを思う強い気持ちと行動が相手を動かすのであるということに気付くはずである。歯科医師であれば、紹介されている症例がいずれも長期に管理され安定しているものばかりであることにまず目がいくであろう。その間に行われた治療の内容も興味深いのが、その後のメンテナンスがどのように北川原歯科医院の中で行われているのかも知りたいところであろう。そのあたりに関す



歯苦歯苦 こうして治した歯周病
北川原 健 著
A4 判変型 40 頁 定価3,150 円（本体3,000 円＋税5%）
医歯薬出版株式会社刊

ることについて、著者は惜しげもなく既刊の論文や著書で披露しているので興味のある先生は是非入手して参考にされることをお勧めしたい。

本書では長期経過の中で、経過の思わしくない症例も提示されている。強い力が原因の症例であるが、初診の状態から治療後の患者さんが喜んで何でも食べられるという手記と、その後に補綴物が脱落してしまうまでのドラマが2 ページの中に凝縮され、力のコントロールが今後の課題であることが示唆されている。

筆者は十数年前から北川原先生と親しくお話をさせていただく機会に恵まれている。本書のように、患者さんの体験記を組み込みながら歯周疾患に関する書籍を作製できるのは、北川原先生のお人柄ゆえのことであることをいまさらながら感じさせられる。気安く真似のできることではないが、あとがきにある「どんな歯医者になりたかったのかが患者さんのお口の中に現れる」という一文にハッと、後半に入った臨床家人生にまた「喝」を入れられた必読の一冊である。

（すがいあきひろ 〒212-0016 川崎市幸区南幸町 2-8-1 オーベル川崎101 須貝歯科医院 Tel：044-533-8148）